東京新聞（夕刊）　2000.9.4.　（第3種郵便物認可）

地域通貨の可能性

オークションの要素が創造を生む

西部　忠

去る七月二十一日に札幌の「ガバチョマネー研究会」は、地域通貨実験「ポット楽ション」を行った。この研究会は地域通貨の学習と実践のために昨年十二月に作られたもので、学習を終えいよいよ実験段階に移行した。そこで発案され実施されたのがポット楽ションだ。

地域通貨とは、特定の地域やコミュニティーの中だけで流通する無利子の通貨で、世界全体では二千五百カ所、日本でも三十カ所以上の地域が導入している。ここ北海道でも栗山町が福祉・介護分野での地域通貨の導入実験を行ない、下川町や富良野町が上川支庁の支援を受け、地域通貨の導入プロジェクトを実施中である。苫小牧や札幌市北区も住民が独自の地域通貨を作っている。

地域通貨には、地域が独自の紙幣を発行し、それが次々に流通する「現金型」と、登録参加者が自分の口座をもち、財やサービスの取引額を売り手は黒字、買い手は赤字として記録する「口座型」がある。現金型の代表はアメリカで生まれた「イサカアワー」、口座型の代表はカナダで生まれた「LETS（Local Exchange Trading System＝地域交換取引制度」。

ともに、無利子で蓄積されない地域通貨を域内限定で循環させて地域経済を刺激し、循環型の経済を築くことや、信頼貨幣の利用によりメンバー間の互助意識や交流を深めることをその目的とする。

イサカアワーの考案者ポール・グローヴァーは、アワーを普及させるため人々が楽しく出会うための「ポットラック」を定期的に行った。参加者が家で眠っているものを持ち寄り、各自が好きなものを取っていく。持ってきたものと取っていくものは同じ価値ではないので、贈与や互恵の要素が入っている。

◇　◇　◇

ポット楽ションは、フリーマーケットやオークションの要素を取り入れて、ポットラックを少しマーケットに近づけたものだといえる。今回は現金型を採用したが、もちろん口座型でも可能だ。下川町ではすでに実験的に通帳を使ってLETSを実践していたので、七月二十八日に口座型のポット楽ションを実施した。

ガバチョマネー研究会のポット楽ションのやり方を簡単に説明しよう。

①まず、参加者全員に3000ガバチョを支給する。1ガバチョ＝1円に相当するが、ガバチョの円への交換はできない。

②参加者は、不用品や売りたいもの二、三品を持ち寄る。また、ポット楽ションを楽しく行うために、飲み物や食べ物を持ち寄ることも欠かせない。

③参加者が順番に自分の品を披露する。その由来や効能をうまく説明することがここでは大切である。オークションアが売り手の希望最低価格を告げ、そこから全員でせり上げていく。例えば、置き時計の場合、最初1000ガバチョから始め、最後に2000ガバチョにまでせり上がったとする。それ以上のコールがなければ、オークショニアが「ハンマープライス」と叫び、落札となる。

④買い手は、金額のうち半分を現金、半分をガバチョで支払い（この例では、1000円と1000ガバチョ）、所定の手数料を現金で事務局に支払う。手数料は、事務局の運営、紙幣や通帳の発行・管理、「売ります」、「買います」のリストづくりに利用される。

このような取引を全員について順番に行い、最後に、今後の検討材料にするため、全員のガバチョ残高や取引内容を記録しておく。

◇　◇　◇

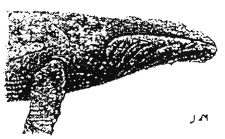
ちなみに、今回のポット楽ションには十一人が参加、合計33000ガバチョが発行された。残高は最高の人で3900ガバチョ、最低の人で1500ガバチョ。私の手元にはいま3100ガバチョがあるので100ガバチョのプラスである。

取り引きされたのは、萩焼のぐい飲み一式、化粧品三品、地域通貨関連の本や雑誌、コンピュータソフトCD、置き時計、ゴルフ・スコアブック、サッカー・ユニホーム、パソコン伝授など全部で十八品目。総取引額は18700ガバチョだから、一品目約1000ガバチョの値が付いたことになる。半分は現金だから、この日9350ガバチョが流通したわけだ。

ポット楽ションにはわざと「競争」の要素を入れてある。このため、人気の高い品はせり上がったが、だれも入札しない品も出た。「助け合いの精神を崩すので、地域通貨は、競争的要素が入る一般の財やサービスの取引に使わない方がよい」という意見もあろう。だが、個人間の相対取引と交渉を基盤とするLETSにはもともと、互恵や相互扶助の要素とともに、公正な交換における競い合いの要素が入っている。

地域通貨取引は弱者救済ではないし、相互扶助というだけでもない。それは、互酬と交換が両方入った「互酬的交換」である。そこではだれもが、どんなものを持ってくるか、どんなサービスを提供しようかなど、いろいろと知恵を絞って考える。一人一人が「起業家」として、利益ではなくて正当な評価を求めることから、いろんな発見や創造も生まれてくる。地域通貨のこの側面も今後は認識されるべきだろう。

文化



増田　常徳・画

波小波大

柳美里の私記「命」（小学館刊）が三十五万部を突破したという。〝家族再生〟の試みの書として読まれているらしい。

柳美里の行方

妻子ある愛人の子をみごもり、未婚の母となる決心を固めたものの、先行きの不安と男への未練にさいなまれてのたうちまわっていたさなかに、かつて十年生活を共にした東京キッドブラザースの演出家東由多加のがんが悪化したのを知る。東の病を力を尽して看取ると同時に、彼に支えになってもらって、男の子を産み、三人目での新しい生活を夢みるが、東は間もなく死んでしまう。

「この一年間、宿命と運命に打ちのめされつづけました」と柳美里は「文芸春秋」九月号の五十枚の手記で語っている。「命」に書かれた彼女の言動には、非常識とも甘えとも思える部分が多少あるが、そうしたものから生じる結果を、すべてわが身に引き受けようとする無鉄砲なほどのいさぎよさが読者の共感を呼んだのだろう。続編が予定されているようだが、時に「血腥い情念」が身内を吹き荒れるというこの未婚の母の暗夜行路は、世の関心を引き続けるに違いない。

しかし作家柳美里は今後どうなるのか。私記の形で私生活を公開し、手っ取り早い生の感銘を読者に与えてしまったあと、小説でそれを超えることができるか。難しい所へさしかかったように見える。（新生）

にしべ・まこと　一九六二年生まれ。北海道大学大学院経済学研究科助教授（進化経済学）。著書に「市場像の系譜学」（東洋経済新報社）、共著に「可能なるコミュニズム」（太田出版）、「経済学史」（有斐閣）など。

日本考古学の百年

斎藤　忠

第九章　けんらんたる発見と発掘

東国の壁画古墳

古墳の横穴式石室の壁画に色彩による絵画のある例は、その本格的な発達の地として、北九州の地、さらには、終末期古墳の特異な例として、奈良県高松塚古墳、亀虎古墳などがあげられるが、東国の地に、この種のものがあることが明らかにされたのは、二十世紀における学問的な収穫といってよい。

また、横穴に線彫りによる絵画のある例も、大阪府柏原市の高井田横穴の人物像をはじめとして、各地に分存しているが、茨城県のほか、東北地方の福島横穴、中田横穴に、それぞれ

な内容の壁画が発見され、この域における横穴壁画文化が、一に発見された泉崎横穴の例と、に、きわめて特殊性のあること認識された。

清戸廻横穴は、双葉郡双葉ある。一九六七（昭和四十二）十一月、双葉南小学校を新築ための敷地造成工事中に偶然されたもので、渡辺晴雄、梅雨氏らによって調査された。は奥壁中央正面から向かって左寄りの上方に大きいうずまを描く。その外端の条線は向て右の方に派出して、人物の部につらなっている。この、も、高さ約七十二センチで、帽をり正面を向左手をのばし右手を腰にしているもの太いズボン襦を着用し

展覧会

★岡谷敦魚版画展　中央区銀座3ノ17チェリービル2階、ギャラリー葉（9日まで）

★舟橋英男版画展　文京区千駄木20ノ8木下ビル1階、千駄木画廊（まで）

★ヘレン・ペトラ&フレダ・フェライルド展　武蔵野市吉祥寺南町2ノ4オフィスワンB1、ギャラリーム（10日まで、水曜休廊）

★岩戸敏彦・人物を描く、油彩と展　横浜市中区真砂町3ノ33セル階、せんたあ画廊（10日まで）

★嶋田誓雄版画展　国立市中1ノ66、Art Space 88（7日～12日）

★坂部隆芳新作展「白のシリーズ」中央区銀座5ノ5ノ9アベビル3階、カジマアート（14日まで）